シイタケ菌打ちイベント・レポ

冨江 文雄

コロナ禍がようやくほぼ終わり、昨年までは午前中のみのイベントであったが、今回（2 月 17 日）は午後も含めての開催となった。佐保台小学校放課後こども教室を中心に子ども 15 人、保護者 16 人、地域コーディネーター5 人の計 36 人の参加者があり、会員 22 名が運営を担当した。9 時から会場の設営を開始、10 時から企

画推進委員長の森兼氏から開会のことば、千載会長の挨拶があって、すぐに 2 班に分かれて活動を開始した。

午前中はシイタケ菌打ちの班と植樹の班がそれぞれ交代して作業に入った。

ベテラン会員が榾木にドリルで穴をあけ、そこに子どもたちが保護者に助けられてシイタケ菌を打ち込むのだが、初めての経験に最初は戸惑っていたが、慣れるとどんどん作業が進んだ。

植樹の準備は前もって用意したドングリから成長し 2-3 年経ったコナラの幼木を、これも事前準備した穴に植込みました。竹で作った添え木を立てて、植えた子どもの名前を書いた銘板を付けて完成させる。

両方の作業を終えると結構な運動量になった。昼食には会の名物料理、‘豚汁’が振る舞われ、アツアツをお代わりする子どももいた。

午後の部では、山の中に設営された遊具での里山遊びとベースキャンプでの工作/クラフト体験（クマのペンダント作り）を楽しんだ。

午後 2 時半頃には全ての活動が終わり、満ち足りた子どもたちの顔が見られた。

参加者には既に芽の出たシイタケの榾木がお土産として渡された。今日の里山遊びが子どもたちの貴重な体験として記憶に残ることを期待する。